

リード線のあれこれ

リード線の物理的な取扱い方（取付、取外し）について、ある程度知っておく方が無難です。

1 リード線の種類

リード線は4本1組です。すなわち赤(R+) & 緑(R-)、白(L+) & 青(L-)。

(1) リード線の片側にカラーチューブがあり、反対側は黒チューブを使っているもの

この場合、カラーチューブ側をカートリッジのピンに差し、黒チューブ側をヘッドシェル側のピンに差すと決め付けてよいと思います。

(2) リード線の両側にカラーチューブがあるもの

この場合はどちら側をヘッドシェル側にするか、端子の状態を調べ、自分でヘッドシェル側に（黒い）マークをする必要があります。

端子の切れ目（スリット）の開き方が狭い方がヘッドシェル側になります。

(3) リード線の被覆そのものでカラー表示をしているもの

上記(2)と同じ扱いになります。

2 リード線の端子の種類

端子の断面は通常三角形のおむすび型で、スリットが入っています。

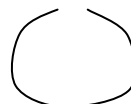
ここへピンが入り、三角形のおむすびが少し開いてピンを締め付けるという仕組みです。

しかし、たまに円筒形に切れ目が入ったモノが存在します。

この場合、ピンのサイズとうまく合えばいいのですが、ピンが太い場合は問題が生じることがあります。円筒が広がりっ放しになり、締め付け力が無くなるわけです。



おむすび型



円筒型

3 端子の抜き差し

まず抜き差しの順序ですが、リード線の取付けはヘッドシェル側が先、カートリッジ側が後になります。抜く場合は逆の順序になります。

「カートリッジを主に」ということでしょうか。

次に、差す場合ですが、端子の断面がおむすび型であれば、まず問題は起こりません。

万が一、緩い場合はペンチで微妙にスリットを狭めてやります。やり過ぎると小さなマイナスドライバーなどで緩めてやらなければなりません。

今度は抜く場合です。断面がおむすび型の場合に抜き難いことがあります。

その場合はピンセットなりペンチがどのように端子を挟んでいるか調べて下さい。

端子を挟むことによってピンを締め付けている場合があるからです。

このような場合は挟み方を変えようまくいくと思います。

いずれにしても、端子を挟む力加減が重要です。強過ぎると端子が壊れますし、弱いと抜き差しが出来ません。

4 工具

何しろ華奢で繊細な小さい部品を扱うので工具は大切です。

(1) 通常のピンセット

可も無く不可も無く、ですが、力を入れて挟まないといけない点がマイナス要素です。

(2) 逆作用ピンセットの高級品

これは通常のピンセットと逆で、端子を挟もうとすると先端が開きます。

挟む力の加減はバネの力を調節して行います。他の事に注意を払えることが利点です。

(3) 通常のラジオペンチ

これはまず力加減が難しく、次に先端が太過ぎるという欠点があります。

(4) リードペンチ

ラジオペンチに比べて先端が薄くて細いので精密作業に適している、ということになります。例えばトップ工業のニードルノーズベンチプライヤなど。

以上